

へる事は出来ぬ、今日は何處迄も活動主義でなければならぬ。と云ふのがオイケンの考である。この永遠の世界、價値の世界を理想する時は、我々は昔の理想主義の如きものに満足する事は出来ない、昔の理想主義は何もしないで居る至極暢氣な事であるが、そんな事で充分であるとは決して云はれぬ、我々は充分に働かなくてはならぬ。藝術知識の様なものは人間の意志の力によつて出来る、昔は眞理は人の考によつて出来る考へて居たけれども、夫れは誤であつて、眞理は實行、活動によつて得られる、我々の眞の行動の結果として得られる、と云ふのがオイケンの考で、即ち活動主義である。眞の行動とは動物的に手足を動かすのではなく、大なる生命と意志と一致するときは活動しないでは居れぬ様になる、即ち之である。これによつて實行して行く事に於て、眞善美の具備した理想は表はれると考へるのである。

かゝる事によつて、十九世紀の科學的文明に對して精神的の活動主義が盛に唱へられた。而し之等の人々も自然科學を無視するのではない、科學の效果價値は充分に之を認めて其發達する事を希ふのは勿論である。然し其色々に領分を分けた科學を、唯集めたと云ふ丈では、人生にも世界にもならぬ、人生世界を全体として見る時は、之と異なる方法でなくてはならぬ、決して其價値を疑ふのではないけれども、科學の集つた丈では全体を捉へる事は出来ない、而し夫れ夫れの領分では、勿論科學の教によつて進まねばならぬ、唯科學萬能に反對して、人生を異つた解釋で見ねばならぬと云ふのである。斯くの如き精神的の生活によつて、眞の人生の價値は認められる、それと同時にもう一つは、科學そのもの、基礎の定まるもの、又この精神的の生活によるものである、其の眞の理想を表はす科學、美の理想を表はす藝術、善の理想を表はす道德によつて、眞の文明は成り立つものである、之等は文明の主なる領分であつて、それは又この精神的活動によつて、價値

と意義とが定まり、而して將來の發展を望むのである。

今日我が國にもかゝる思想が多く入つて來て、珍らしくもなく、又話し方も拙いので、甚だ不完全、不都合であつたが、兎に角我々は、科學の價値を認めると同時に、其根本に今少し偉大なもの、あるのを忘れず、其方面に努力すべきである。面らば科學・藝術・道德・宗教は、之によつて基礎を定め、健全な發達を遂げるであらふと思ふ。(完)

女子教育及び婦人問題に関する参考書

(一)生徒心理の方面の研究及び感想

編者	書名	發行所	發行年月	定價
大島居次郎	男女の研究	光風館	明治三七、六	五〇
加藤咄堂	女性觀	井洸堂	三七、一一	三五
○片山正雄	男女の天才	大日本圖書株式會社	三九、一一	六五
大島居次郎	婦人觀論	光風館	四〇、六	五〇
伊賀駒吉郎	女性觀	寶文館	四〇、一二	二、五〇
堺利彦	男女關係の進化	有樂社	四一、五	三〇
○ヘンリーマリオン著 前田長太譯	女性の心理	開發社	四一、九	六五
○大澤謙二	生理學上の婦人の本分	大倉書店	四一、一〇	五五
澤田順次郎	雌雄進化的論	博文館	四二、三	四五
メチニコフ原著	人種進化論	大日本文明協會	四三、一一	一一